

2026年4月6日

各位

興和株式会社

興和が独自開発した抗体-薬物搭載ミセル複合体（ADUC）
「開発コード：K-679」の腫瘍集積性に関する非臨床試験結果を
American Association for Cancer Research 2026 で発表

興和株式会社（以下「興和」）は、2026年4月17日から4月22日に米国カリフォルニア州サンディエゴで開催される米国癌学会年次総会（The American Association for Cancer Research Annual Meeting, 2026（以下「AACR 2026」）のポスターセッションにおいて、『開発コード：K-679』の非臨床試験データに関する発表を行う予定ですのでお知らせいたします。

K-679は、興和が独自開発した抗体-薬物搭載ミセル複合体（ADUC：Antibody Drug-loaded Unimicelle Conjugate）であり、大量に薬物を搭載させることにより、非臨床試験において既存技術を用いて作製した抗体-薬物複合体（ADC：Antibody-Drug Conjugate）と比較してより強力な抗腫瘍効果を示しました。

■AACR 2026 で採択された発表は以下のとおりです。

発表形式	ポスター発表
ポスター番号	4396
発表タイトル	Selective intratumoral distribution and post-T-DXd activity of K-679, an ultra-high-DAR EGFR-targeted antibody drug-loaded unimicelle conjugate (ADUC)
発表者	吉田 英雄
セッション	Antibody Technologies and Platforms 2
発表日時	2026年4月21日 9:00-12:00（米国時間）

※抄録の詳細は、以下よりご確認ください。

AACR2026 ホームページ：[AACR Annual Meeting 2026 Itinerary Planner | Presentation](#)

■AACR2026 学会について

学会名	American Association for Cancer Research 2026
会期	2026年4月17日から4月22日（米国時間）
場所	米国カリフォルニア州サンディエゴ San Diego Convention Center （住所）111 W Harbor Drive San Diego, CA 92101

■AACR2026 での発表内容について

K-679 は、EGFR 発現ヒトがん細胞株移植モデル（CDX: cell line-derived xenograft）において、既存技術を用いて作製した ADC（DAR: 薬物抗体結合比=4~5）と比較して、より強力な抗腫瘍効果を示すことを今年の AACR2025 で報告しました。今年の AACR2026 では、上記 CDX モデルにおいて薬物動態および薬力学解析を行い、従来型 ADC と比較して、K-679 は血中では安定であるとともに、腫瘍内により多くの微小管重合阻害剤 DM1 を送達し、腫瘍組織内全体で細胞分裂停止およびアポトーシスの指標を増加させることが確認されました。

また、EGFR 低発現かつ不均一な大腸がん患者由来がん組織移植モデル（PDX: patient-derived xenograft）においても腫瘍増殖抑制効果が確認されました。

■K-679 について

K-679 は、EGFR（EGF 受容体）を標的とする抗体に、微小管重合阻害剤 DM1 を搭載したユニミセル（単鎖ポリマー由来のナノ粒子）を結合させた興和独自の ADUC です。ユニミセル技術は抗体 1 分子当たり約 45 個の DM1 を搭載できる設計とすることで、抗原密度が低いあるいは不均一な腫瘍においても腫瘍選択的な薬物曝露と抗腫瘍効果の向上を狙っています。現在、臨床試験の開始に向けて準備を進めております。

以上